

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 T1 教諭 菅 都
T2 栄養教諭 石田 恵美

1 日時 令和2年11月19日(木) 第5校時

2 学年 第3学年1組 男子11名 女子13名 計24名

3 場所 第3学年1組教室

4 単元名 「尾道のよさを見つけよう」

本単元で育成する資質・能力

情報活用能力

多様性適応能力

コミュニケーション能力

レジリエンス

自らへの自信

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領における総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。」を受けて設定した。

本単元は、自分たちの住んでいる尾道のよさを見つけ、まとめ、伝える活動を通して、地域に対する愛着を深め、これからの自分の生活や生き方に生かしていくことをねらいとしている。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期は、尾道のおすすめスポットをインタビューしたり、インターネットを活用して調べたりして、尾道市は海や山、島といった地形により、さまざまな場所があり、尾道市民や訪れる観光客を楽しませていることに気付くことができた。2学期は、尾道の特産物について、瀬戸田や向島へ社会見学に行き、レモン農家やイチジク農家への取材やジャム体験、もぎとり体験を行い、学んだことを新聞にまとめた。

本時は、栄養教諭と授業を行い、尾道の特産物についてさらに学習を深めていく。尾道市は海や山、島といった地形の他、温かい気候により、豊富な食材があることを知らせる。また、写真を用いて、生産者の苦労や工夫を伝えることにより、自然の恵みや生産者への感謝の気持ちが深まるようにしていく。さらに、給食に地域の食材が使われている理由を考えさせることで、地域の食材のよさと自分の生活との結び付きに気付かせる。最後に、地域の食材を大切にする方法として、自分たちでできることを考えさせ、今後の学習意欲が高まるようにつなげていく。

(3) 指導観

本単元全体を通して、児童が主体的に取り組めるよう、次の工夫を取り入れる。1点目は、探究の過程における工夫である。導入では、尾道で自分たちが行ったことのある場所やおすすめの場所を紹介し合う中で、「友達のおすすめの場所をもっと詳しく知りたい。」「素敵な場所は他にもありそうだ。」と尾道に関心をもたせ、課題を設定する。その後、課題解決に向けて、図書や資料・インターネットを活用した調べ学習や栄養教諭、農家の人への聞き取りなど、学習方法を工夫する。2点目は、毎時間の振り返りの時間を有効に活用し、自分たちの活動や成長を確認しながら、次時への活動の意欲や自信を持たせるようにする。そして、学習を進めていく中で、尾道という地域に対する愛着を深め、これからの自分の生活や生き方に生かしていく。

6 単元の目標

- 自分たちの住んでいる尾道のよさを見つけ、まとめ、伝える活動を通して、地域に対する愛着を深め、これからの自分の生活や生き方に生かしていく。

7 食育の視点

- 地域の産物や食文化を理解し、尊重する心をもつ。【食文化】
- 地域の産物や作ってくださる人、自然の恵みに感謝し、進んで食べようとする意欲をもつ。【感謝の心】

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○尾道の文化や産物、それらに関わる人々の知恵、苦労や願いなどについて理解している。 ○資料やインターネット、インタビューなど情報収集の方法を身に付けている。	○尾道のよさについて目を向け、自ら学習課題を設定している。 ○情報を収集し、整理・分析したり、考えを出し合ったりしながら自分の考えをまとめ、表現している。	○目的意識をもち、課題解決のために、意欲的に活動している。 ○活動内容を自分なりに広げたり、深めたりしようとしている。 ○他者の意見を受け入れながら、力を合わせて課題解決に向かって取り組んでいる。 ○学習を通して、地域への愛着を深めている。

9 学習計画 全 40 時間 (本時 25/40)

- 第一次 尾道について知りたいことを考えよう (5 時間)
 - ・行ったことのある場所
 - ・知っている行事・祭り
- 第二次 尾道のよさを知ろう (23 時間)
 - ・おすすめスポットを調べよう
 - ・見学に行こう (レモン・いちじくの生産者)
 - ・尾道の食べ物をもっと知ろう (本時)
 - ・インタビューしよう
- 第三次 尾道のよさをまとめよう (7 時間)
 - ・伝えたい人の設定
 - ・情報の整理の仕方
 - ・図、表などの挿入
- 第四次 尾道のよさを伝えよう (5 時間)
 - ・自分たちの取組みについて伝えよう

10 本時の展開

(1) 本時の目標

- 自分たちの住んでいる地域で作られた食べ物について知り、そのよさについて考える。

(2) 準備物

- 尾道地図 ○特産物の写真 ○映像機器 (テレビ・パソコン)

(3) 学習の展開

学習段階	学習活動	○指導上の留意点		☆評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
		T 1	T 2	
1 学習課題の把握	1 知っている尾道でとれる食べ物を発表する。	○知っている尾道の食べ物を発表させる。		
	2 本時の学習課題をとらえる。			
尾道の食べ物をもっと知ろう。				
2 学習課題の追究	3 尾道でとれる食べ物を知る。 ・尾道産が生産量1位の食べ物クイズをする。	○地域の食べ物のよさを考えさせる。 ・なぜ給食には地域で作られたものを取り入れているのでしょうか。	○尾道でとれる食べ物(地場産物)を地図上に貼り、紹介する。 ・広島県で1位の生産量の物を知らせる。 ・全国で1位の生産量の物を知らせる。(わけぎ・レモン・ネーブル) ○尾道の食べ物(わけぎ・たこ)や料理(めた)についてクイズ形式で説明を加え、関心を高めさせる。 ○地域の食べ物のよさを知らせる。 ・安心 ・新鮮(おいしい) ・環境にやさしい	☆課題を解決するための根拠を既習内容から探して書いている。(ワークシート・発言) 【情報活用能力】
4 地域の食べ物のよさを考える。				
5 地域の食べ物を大切にするにはどうすればよいか考える。				
		○地域の食べ物を大切にするにはどうすればよいか考えさせる。	○一人一人の考えについて称賛し、課題への意識を高めさせる。	
		○全体交流の前にペアトークを取り入れ、自分の考えに自信をもたせる。		
		○机間指導で把握した児童の意見を生かし、意図的指名を加えながら意見交流をさせる。		

3 振り返り	6 本時の振り返りをする。	○本時の学習課題を確認し、意識させた上で本時の振り返りを記述させるようにする。	○今後の調べ学習の意欲が高まるよう、これから給食に登場する尾道産の食べ物を知らせる。	
-----------	---------------	---	--	--

(4) 板書計画

㉞ 尾道の食べ物をもっと知ろう。

尾道市の地図

地域でとれる食べ物のよさ

地域の食べ物を大切にするには

地場産物写真

- ・安心
- ・安い
- ・おいしい
- ・しんせん

- ・地域でとれるものを買う
- ・食べる
- ・調べる
- ・伝える

㉞